

国際健康福祉実習（スウェーデン）報告書

最終レポート

・実習の概要

初日に「Pusslet」という特別支援の子どもたちが通う保育園を訪問し、ここではスウェーデンの学校におけるクラス編成の方法、教育課程、子どもと先生の比率などについて学んだ。その後、ほとんどの実習期間はボーデン市の高校を訪問し、特別支援を必要とする子どもたち、いわゆるスペシャルニーズの子どもたちの授業見学を行ったり、私たち自身も授業に参加したりした。実際私たちが見学・体験を行った授業はパラ空手やパラ水泳、剣道、折り紙指導、体育授業、料理プログラムの補助だ。

学校での活動以外では乗馬やバイアスロンを経験した。また、アームレスリングの世界チャンピオンの女性から直接指導していただきながら、実際アームレスリングと一緒にするなど現地の大人の方々とも交流し、この機会がなければ出来なかつたはずの出会いがあった。別日には軍事博物館を訪問し、実際の戦車や軍用ヘリコプターに座って実際のスイッチを触ることもできた。このように日本ではほとんど経験できないであろう素晴らしい体験もした。

・実習において良かった点

実習を経て良かったと感じた点は、大きく二点ある。まず一点目はこの国際的な実習経験での活動を通じて、たくさんの人たちにサポートされていることを実感し、当たり前だと思っていたことや現状の環境に対して感謝の気持ちを持てるようになったことだ。特にこの期間中は毎日のように学校や施設を移動するなど、徒歩移動が困難な場所へ行く機会が多くあった。その際の移動手段として車を利用したが、これが可能だった理由は車で朝早くから夜遅くまで送迎してくれた障がい者の方々の優しさが合ったからだと考えている。私たちがこの2週間を何不自由なく過ごせた理由はたくさんの方々の優しさと協力のおかげだと感じ、私の将来なりたい・なるべき像が明確にもなった。このことに気づかせてくれた多くのスウェーデン人のように、誰にでもよくしてあげようという精神をもちたいと考えるようになった。

二点目は、英語が話せなくても積極的に自分から話しかけたり、挨拶を交わすことで相手の警戒心を解くことができ、他国の人とのコミュニケーションのとれたことだ。例えば、歩いていてすれ違いざまに自分から挨拶をすると、相手が私に対して質問をしてくれたり、逆に自分が質問したりする。その際、自分の伝えたいことを拙い英語で伝える力を身につけることができたことだ。翻訳機は極力使わず、自分の知っている単語を並べて伝えようとするだけでも相手はある程度意味をくみ取ってくれるということも知ることが出

來た。この二点に関してはこの実習がなければ知り得なかつたことだと感じ、実習したことによる良い点だと考えている。

・実習において改善してほしい点

生徒間で改善して欲しい点に関して、2点挙げられた。まず一つ目は実習に行く前日本にいる期間に関して、もう少し滞在期間中のスケジュールや必要費用（飛行機代や宿泊費）などの連絡が早い段階で欲しいということ。そして二つ目はたくさん的人が私たちの為に最善を尽くしてくれていることはすごく伝わってきたが、現地での急な予定変更や、当日になるまで何をするかについての詳細が十分伝えられておらず、分からぬことが何度かあったことだ。

・実習で学んだこと

この実習を通して学んだことは二つある。一つ目は、日本の教育とスウェーデンの教育に対するサポート、福祉制度の手厚さの違いを目の当たりにし、日本と世界の差を感じられたことだ。日本は世界的に見て先進国側のイメージがあり、教育制度や福祉制度は義務教育、生活保護などを含めかなり充実している方だと思っていた。さらに、近年では私立高校の授業料無償化などにも取り組んでいることを知っていたため、特に教育に関しては世界から後れをとっていないと思っていた。しかし、世界的に見ても福祉制度が充実しているスウェーデンの手厚い制度を実際に目の当たりにすると、スウェーデンと日本の違いに驚くと同時に日本が遅れていることを学んだ。二つ目は、実習において良かった点の二つ目として先にも述べた、「自らコミュニケーションを取りに行くことの重要性」だ。スウェーデンの街の人と話す時はこちらから話しかけることが大半だったが、話しかけると大抵の人は嫌な顔せぬ話し相手になってくれたため、寛大で社交的な人が多いと思っていた。しかし、あとから現地の学校の方にスウェーデン人の性格について聞くと、近所づきあいもしないほど社会と隔離するようなタイプの人が多いと知り、積極的に挨拶を交わすことはコミュニケーションにつながり、新しい出会いにも繋がることをが遅れていること身をもって学んだ。

・学んだことを今後どのように生かすか

今回の実習で学んだコミュニケーションのとり方や日本の現状を今後の大学生活の中で、さらに、その先の社会人生活でも生かしていきたいと考えている。例えば、3回生から新たに始まる大学のゼミ活動では、色々な性格の人とたくさん関わり、新たな出会いがある。その際にここで学び、身につけた自分から積極的に挨拶をする、話しかけるという行動を起こし、初対面だとしてもスウェーデンの方のように誰にでも惜しみない協力をしていきたい。そして、この協力精神が連鎖的に広がるようにしたいと考えている。

スウェーデンと日本の教育制度や福祉制度の違いを学んだことは、将来国際的な視点を

持つことや、異文化理解に役立てられると考えている。大学で私は教職課程を学んでいるため、今後日本の教育についても見つけた課題に対して様々な視点から解決策を提案する際に今回の実習で学んだ多くのことが生かせると感じている。

今回の実習を通してこれまで見えていなかった世界が見え、私自身多くの学びを得ることができ、成長に繋がりました。なにより、この国際健康福祉実習を実施するにあたって関わってくださった方々に心から感謝しています。この素晴らしい機会を与え、サポートしてくださった現地の方々、先生方、2週間一緒に過ごした仲間など、多くの支えがあつたからだということを忘れず、今後もこの実習での経験を生かし、成長していきたいと思います。ありがとうございました。